

平成30年度

石手川ダム水源地域ビジョン

活 動 報 告 書

石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会

# 1. 平成30年度活動状況

## (1) 会議

- 平成30年 6月 6日 (水) 推進委員会 出席委員 9名
- 同 日 連絡協議会
- 第1回 地域・環境づくり部会 出席委員 20名
  
- 平成30年10月 30日 (火)
- 第2回 地域・環境づくり部会 出席委員 20名

## (2) 実施事業

- 平成30年 6月 9日 (土) カジカガエルの観察会  
参加者 39名
  
- 平成30年 7月26日 (木) 自然と遊ぼうDAY!  
参加者 93名
  
- 平成30年12月 1日 (土) 自然観察会&ダム見学会  
参加者 33名
  
- 平成30年11月11日 (日) 竹を使おうDAY!  
参加者 31名
  
- 平成31年 2月15日 (金) 留学生友好の森づくり  
参加者 101名
  
- 参加者 合計 297名

## (3) その他

自動販売機の設置契約について

## 2. 会議での協議内容

◎ 平成30年 6月 6日 (水) 推進委員会での協議
-----------------------------

1. 平成29年度決算報告（承認）

2. 平成30年度事業計画及び予算説明（承認）

（平成30年度事業の方向性）

○ 6月上旬に「カジカガエルの観察会」、7月下旬に「自然と遊ぼうDAY!」、11月頃に「オシドリ等の観察会とダム見学会」のイベントを実施し、石手川ダム周辺が、自然豊かであることを市民に周知するとともに、上・下流域の交流を図る。

○ 12月上旬頃に「竹を使おうDAY!」のイベントを実施し、現在の森林が抱えている様々な問題を、下流域の方々へ周知を図る。

○ 2月に「留学生友好の森づくり」事業を実施し、留学生と水源地域の子どもたちが植樹活動等をおして、交流を図る。

○ 放置竹林対策や竹の有効活用について引き続き、調査研究・検討等を行う。

以上のような方向性に基づき、詳細な検討や事業の実施方法等は、連絡協議会に一任する。

◎ 平成30年 6月 6日 (水) 推進連絡協議会での協議

● 環境づくり部会

○各イベントの実施について

- ・例年どおり、「カジカガエルの観察会」や「自然と遊ぼう DAY！」を、継続して実施するが、参加者の安全確保を図る。
- ・カジカガエルの観察会は非常に人気で、応募者多数の場合には抽選方式も検討する。

○不法投棄防止対策について

- ・引き続き、啓発活動を実施する。整然とした路肩の維持に努めるなど、必要に応じて、新たな具体的対策について検討する。

● 地域づくり部会

○各イベントの実施について

- ・本市における放置竹林の課題を市民に周知するため、両部会において、協力しながら、「竹を使おう DAY！」のイベントを継続して実施する。
- ・水源地域の子供たちと留学生との交流の場として、好評であることから今年度も引き続き、留学生友好の森づくり事業を実施する。植樹の際には、引き続きシカ等による鳥獣被害の対策を講ずる。

○遊休農地の有効活用について

- ・「水農里会」の活動を、引き続き支援していくことにより、遊休農地の有効活用を図る。

◎ 平成30年10月30日（火） 推進連絡協議会での協議

● 環境づくり部会

○ これまで行ったイベントの実施報告

- カジカガエルの観察会及び自然と遊ぼうDAY！

\*観察の順番待ちを少なくするため来年度は準備物の充実を図る。

○ 今後の行うイベントについて

- 「オンドリをはじめ冬鳥の観察&ダム見学！！」を実施する。

○ その他

- 来年度の「カジカガエルの観察会」について

・募集方法の変更について（先着順から抽選へ）

・観察する場所について（現状の場所より多く見ることが可能な場所があるが安全性の問題もあり今後検討）

- 五明地区で以前行っていた「オオムラサキの放蝶会」について

確実に見てもらえるよう数多く飼育した方が良いため現状難しいが、将来的にイベントが出来たらよい

- 日浦の学校（PTA）活動について

河川清掃を検討しており、計画がまとまれば協議を行う。

● 地域づくり部会

○ 今後の行うイベントについて

- 「竹を使おうDAY！」

放置竹林対策や竹の有効活用について啓発するため、今年度も「竹を使おうDAY！」を11月11日に開催予定。環境づくり部会とも協力して行う。

- 留学生友好の森づくり事業

日浦小中学校の「日浦夢桜の森づくり事業」と合わせて2月15日に開催予定。留学生の参加人数を増やすよう配慮し、植樹する際には安全対策を講ずること。

○ その他

- 新たなイベントについて

現在イベントを行っていない地域でも、今後イベントができるよう検討していく。

- 水農里会の活動について

可能な範囲で支援・連携等を行い、遊休農地の有効活用を図る。